

ペンキの塗り方

春は天気がよく、ペンキ塗りには絶好のチャンスです。この機会に、気になっていたところをペインティングしてみませんか。今回は、ペイントの基礎知識、作業手順などをご紹介します。

■ペイントする前の下準備

- ペイントするのは、良く晴れた日の午前中がベストです。ペンキが乾きにくい雨の日や湿気の多い日、気温が低い日は避けましょう。
- ペイントをする前に塗る部分の状態を整えます。サビ落としやカビ取りはもちろんのこと、手垢やごみもきれいに拭き取ります。そして、乾燥させておきます。
- ペンキが付いては困る部分はマスキングテープや布コロナマスキ、紙ポリクイック、新聞紙等で覆います。

きれいに塗るコツ

ペンキは、フタを開ける前に缶をよく振り、フタを開けてからもよくかき混ぜます。また、ペンキを付けすぎると塗りにくくなります。ハケやローラーにペンキを付けすぎないように、よくしごいてから使います。きれいに塗るためには、一定方向へ一定のペースでゆっくり塗っていきます。また、厚塗りは乾燥不良や塗膜の縮みの原因になります。

注意



屋内でペイントをするときは、換気に注意しましょう。風通しをよくしておくこと、匂いがこもらず、塗料も早く乾きます。

コツ1



隅やコーナーなどの塗りにくい場所から塗りはじめます。

コツ2



高い場所を塗るときには、コテバケやローラーに継ぎ柄をつけると楽に塗れます。

コツ3



ペンキは上から下へ、左から右へというように一定方向へ塗っていきます。

ペンキ選び

■ペンキの種類 ペンキには、塗る素材、塗る場所などに応じた種類があります。

図1

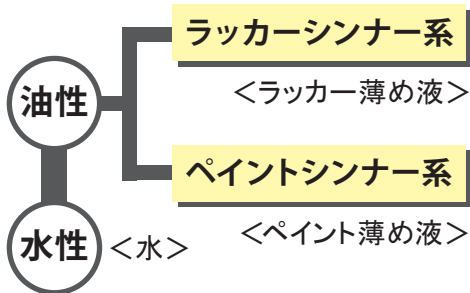


図2

	長所	短所
油性	乾燥後の油膜が固い 耐久性に優れている 水性よりもツヤがある 仕上がりがよい	匂いがある 塗ると溶けてしまう 素材がある
水性	匂いがない 塗りやすい 扱いやすい	ホコリがつきやすい

ペンキは薄め液の違いによって、図1のように油性と水性に分かれ、また、図2のような特徴があります。薄め液はペンキを薄めたり、ハケなどの用品の洗浄に使います。

■ペンキのタイプ

用途によって、多用途タイプと専門特化型に分かれています。多用途タイプはほとんどの場所で使えます。専門特化型はトタン用・お風呂場用等と使用場所が特定されており、その場所に最適な成分が配合されています。

終了後の後始末

塗膜が乾かないうちに、マスキングテープをはがしましょう。ハケやローラーに付いたペンキは、そのペンキの薄め液で洗います。きれいに洗ったあとは、さらに台所用洗剤で洗い、陰干ししておきます。

コメリドットコム「HowTo情報」には、DIY情報、住まいや暮らしに役立つノウハウが満載です。

▶アドレスはこちら・・・

<http://www.komeri.com/howto/>